

中学社会科地理分野において、 身に付けた知識を自分事として捉えて表現できる生徒の育成

－地域的特色と地域の課題をつなげる場の設定と振り返りを生かしたパフォーマンス課題の工夫－

前橋市立みずき中学校 奥村 太威

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編には、「世界の諸地域学習における地球的課題の視点の導入」が示されている。また、前橋市の各教科等指導の努力点（社会科）では、「資料から読み取った情報と既存の知識を関連させながら多面的・多角的に考え、根拠に基づき主体的に考察を繰り返すことで、課題を解決していく必要がある」と示されている。このことから、資料から読み取った情報と既存の知識を基にして身に付けた概念等に関する知識（本研究では、「概念的知識」と示す）を、身近な地域や社会と関連付けて、地球的課題（本研究では「地域の課題」と示す）について考えられるような授業改善が必要であることが分かる。

生徒アンケートを実施したところ、「社会科の学習で学んだことと自分の生活につながりを感じるか」という問いに対して、「感じる」と答えた生徒が 40%を下回った。この結果から本校の生徒は、授業内容を実社会や学校生活と関連付けて捉えられていないことが分かる。そのように、授業内容を捉えられていないのは、教師が生徒に身に付けた知識を活用して地域との関わり方について考察できるようにする機会が少なかったことが原因であると考えられる。このことから、生徒が身に付けた知識を実社会と関連付けながら捉え、地域社会特有の様々な課題について自分事として考察できるようにする必要がある。

地域の課題を自分事として捉えるためには、まず、地域的特色を捉え、地域的特色と関連付けながら、地域の課題に気付くことができるような資料提示が必要であると考えられる。次に、地域の課題と生徒自身を近づけるために、振り返りとパフォーマンス課題を工夫する。その上で、単元末のパフォーマンス課題において、蓄積した振り返りを生かして、解決策を考える時間を設定することによって、生徒は既習事項を活用しながら課題解決に向かうであろうと考えられる。

以上のことから、中学社会科地理分野において、地域的特色と地域の課題をつなげる場の設定と振り返りを生かしたパフォーマンス課題の工夫を行うことで、身に付けた知識を自分事として捉えて表現できる生徒の育成ができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学社会科地理分野において、身に付けた知識を自分事として捉えて表現できる生徒を育成するために、地域的特色と地域の課題をつなげる場の設定と振り返りを生かしたパフォーマンス課題の工夫を行うことによる有効性を、授業実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

中学校社会科の学習指導において、以下の二つの手立てを講じることで、身に付けた知識を自分事として捉えて表現できる生徒を育成することができるであろう。

【手立て1】地域的特色と地域の課題をつなげる場の設定

地域的特色を捉えるために、思考ツールを使いながら読み取った情報を基にして、根拠を示しながら意見交流を行う活動を取り入れる。また、地域の課題に関する資料を提示し地域的特色と関連付けながら地域の課題を見出せるようにする。

【手立て2】振り返りを生かしたパフォーマンス課題の工夫

地域の課題について自分の考えがもてるように、授業で扱った国や地域に住む人の立場に着目し、自分の思いや考えを表出できる振り返りの工夫を毎時間行う。また、蓄積した振り返りを用いて単元末にパフォーマンス課題を設定し、「地域の課題の解決策」について考えられるようにする。

IV 実践内容

本研究では、第1学年4学級（123名）を対象に社会科地理分野「アジア州—急速な都市の成長と変化—」（全8時間）において授業実践を行った。

1 手立て1「地域的特色と地域の課題をつなげる場の設定」

(1) 実践の概要

「中国の経済がどのように発展したのか」を考える授業において、思考ツールを使い、地域的特色を考察できるようにした。使用する思考ツールはみずきシンキン（表1）の中から教師が選び、提示した（P.113資料1参照）。「みずきシンキン」とは、教師が協働学習の目的に応じて生徒に提示する思考ツールである。

表1 みずきシンキンの一覧表

思考ツールの種類	目的	内容
ベン図	比較・分類する	複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
ウェビングマップ	関連付ける	ある対象に関係するものを見つけて増やしていく。
クラゲ・チャート	情報の整理	多様な考えを出し合い、共通点・相違点を明らかにする。
X・Yチャート	多面的・多角的に見る	対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。

「中国の経済がどのように発展したか」という学習課題と、様々な視点を提示し、生徒が情報を捉えられるようにした。その後、発展の理由をより深く考察できるように、資料から読み取った情報を思考ツール「クラゲチャート」に整理し、根拠を示しながら意見交流を行う協働的な学習を取り入れた。ここで、クラゲチャートを提示したのは、一面的にしか見られない生徒が、多様な考えの共通点や相違点を整理できるようにすることで、地域的特色を多面的に捉えられるようにしたかったからである。地域的特色を捉えた後に、地域の課題（ここでは、一極集中と過密・過疎と大気汚染）に関する資料を全体に提示した。中国の地域的特色とつながりのある地域の課題を見いだせるようにするために、海外企業が地域に集中していることに着目できるようにしながら「人口分布のようす」「大気汚染がわかる地図」「地域格差の写真」の資料を提示した（P.114資料2参照）。

(2) 結果と考察

中国の発展の理由を、「機械の大量生産・働き手の多さ」と予想していた生徒Aは、グループ活動の中で、生徒Bの「海外企業の進出を積極的に受け入れたことが経済発展につ

ながった」という考えを聞いて、働き手が多いだけでは経済発展しないことに気づき、「海外企業を受け入れた」（図1①）という情報と「働き手が多い」という情報を関連付けながら「海外企業の進出を積極的に受け入れながら、安くて豊富な労働力を生かして工業製品を生産した」と自身の考えを再構築し、地域的特色を捉えた。

その結果、生徒Aは、自身が捉えた「働き手が多い」ことは過密という地域の課題につながっていることに気付いた。そして、生徒Aは、「経済特区を設けて発展した」という中国の地域的特色(表2下線部①)と「大気汚染や人口集中」という課題(表2下線部②)とを関連付けられた。また、「経済特区を設けることで問題解決につながる」というような思いを書きことができた(表2下線部③)。

図2のアンケート結果からは、ほとんどの生徒が思考ツールを使うことで、各单位時間で地域的特色が捉えやすくなったと感じていることが分かる。手立て1の思考ツールを使いながら読み取った情報や多様な考えを主体的に考察し、地域的特色を捉え、資料から地域の課題を見いだす場の設定をしたことで、生徒は、地域的特色と関連付けながら地域の課題を捉えようとしていたと考える。

また、振り返りでは、ほとんどの生徒が中国の地域的特色と関連付けながら、地域の課題を捉えていたことから、地域的特色と地域の課題をつなげる場を設定したことは有効であったと考えられる。

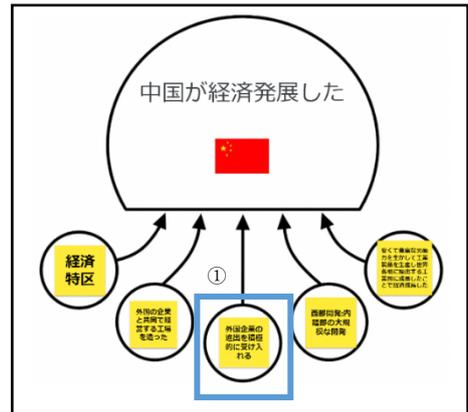


図1 生徒Aのグループの考え

表2 生徒Aの振り返り

①経済特区を設けることで、国が豊かになったけど、②排気ガスや人口増加などで苦勞が増えた。③沿岸部だけでなく、内陸部の開発にも力を入れてほしい。

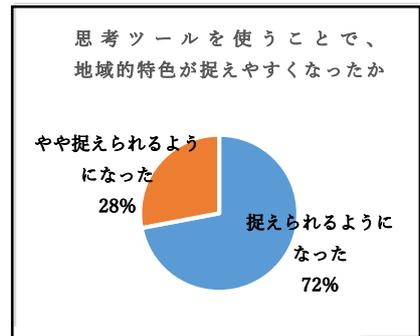


図2 アンケート結果

2 手立て2 「振り返りを生かしたパフォーマンス課題の工夫」

(1) 実践の概要

ア 地域の課題について自分の思いや考えをもてるようにする振り返りの工夫

毎時間の振り返りをシートに蓄積した。振り返りの視点は「分かったこと」と「思いや考え」とした。「思いや考え」を書く際に「授業で扱った国や地域に住む人の立場」に立って考えられるよう言葉がけを行った。

イ 単元末のパフォーマンス課題の設定

「先生」になって「小学生」に伝えるという相手意識をもたせ、パフォーマンス課題「アジア州が抱える課題を解決し、発展を続けていくためにはどのようなことができるのか」を設定した。相手を「小学生」とすることで、過密問題等の用語について詳しい説明を加えながら、自分の考えを再構築することができると思った。アジア州が抱える課題を生徒が三つに絞り、実現可能な解決策を個人で考えるようにした。単元の学習で蓄積してきた自身の地域の課題に対する思いが具現化された振り返りを活用することで、小単元で捉えた概念的知識と生徒自身を近づけようと考えた。

(2) 結果と考察

生徒Cは中国の学習で、地域の課題である過疎過密と環境問題に対する現地の人の大変さを意識して「都市に多くの人が集まりすぎて、環境にも多くの問題があって大変だ」と振り返りに記述していた（表3 下線部①）。また、東南アジアの学習では、過疎過密と都市周辺のスラム問題に対する現地の人の困り感を意識して「経済が発展したことで都市はスラムの形成や過密が大変で困っている」と振り返った（表4 下線部①）。どちらの振り返りも手立て1で捉えた経済の発展の要因の一つである急速な都市部への労働力の集中による都市化という概念的知識（地域的特色と地域の課題）を関連付けながら、自分の考えをもつことができたと考える。生徒Cは、中国と東南アジアの学習の振り返りで記述しているように中国も東南アジアも経済発展の理由の一つである急速な都市化が「過密」という地域の課題につながっていると捉えた。このようにアジア州の地域の課題である人口集中の問題を捉えることができたのは、国や地域に住む人の立場に着目した振り返りを蓄積し、それを見返したことが要因であると考えられる。そして、生徒Cは「過密問題」について、都市集中における環境問題の悪化を心配し、人を分散するという解決策を提案した（表5）。

図3のアンケート結果では、「振り返りで課題に対する自分の思いや考えを書けたか」という質問に対して、半数以上の生徒が授業で扱った国や地域に住む人の立場で思いや考えが記述できたことが分かる。また、手立て1で捉えた地域の課題について手立て2で振り返りを蓄積し、パフォーマンス課題で表出する場を設けたことで、「アジア州」の地域の課題について自分事として捉えて考えていたことがうかがえる（P. 114 資料3 参照）。

表3 生徒Cの中国の振り返り

経済成長をして、工業製品をつくり、世界各国に輸出してよかった。でも①都市に多くの人が集まりすぎて、環境にも多くの問題があって大変だよ。

表4 生徒Cの東南アジアの振り返り

①経済が発展したことで都市はスラムの形成や過密で困っている

表5 生徒Cのパフォーマンス課題の回答

過密問題
過密を解決するためには、都市部の周辺に新しい街を開発して移転を勧め、過密地域の人口を少なくします。

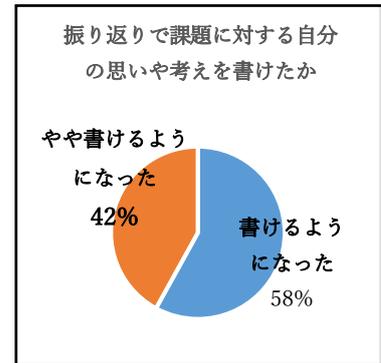


図3 アンケート結果

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

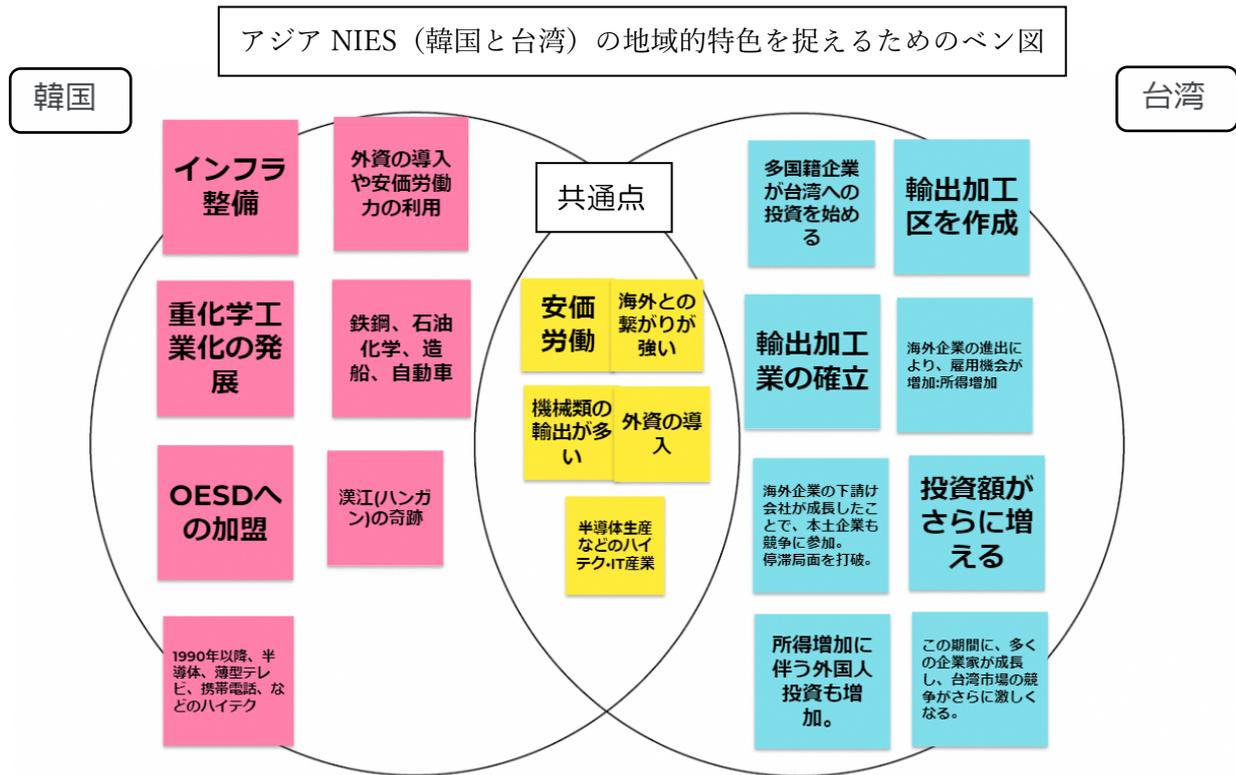
思考ツールを使いながら読み取った情報をグループで考察して、根拠を示しながら意見交流を行う活動を取り入れた結果、地域的特色を捉えることができる生徒が増えた。

蓄積した各単位時間の振り返りを見ながら、パフォーマンス課題を考えることで、地域の課題について自分の思いや考えを生かして解決策を表現できる生徒が増えた。

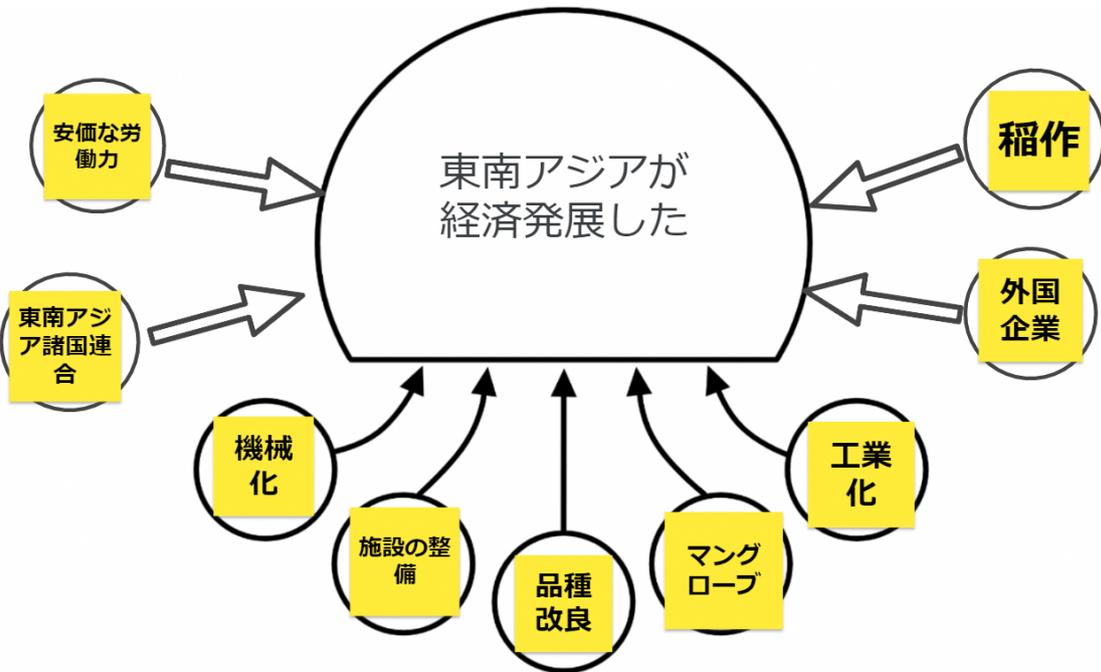
2 今後の課題

生徒が考える地域の課題の解決策が一般的なものになってしまった部分がある。そのため地域の課題の解決策を考える際に、日本の立場に着目できるようにすることで、より自分たちの生活と関連付けて具体的な解決策を考えられるようにしていきたい。

【資料1】みずきシンキン（授業で使った思考ツール）



東南アジアの地域的特色を捉えるためのクラゲチャート



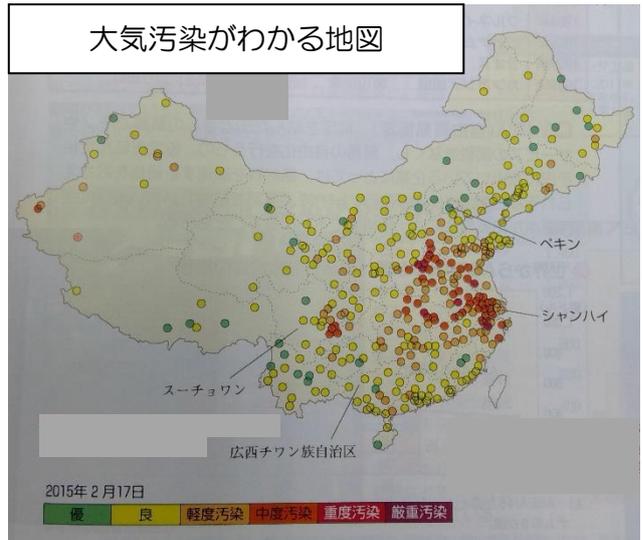
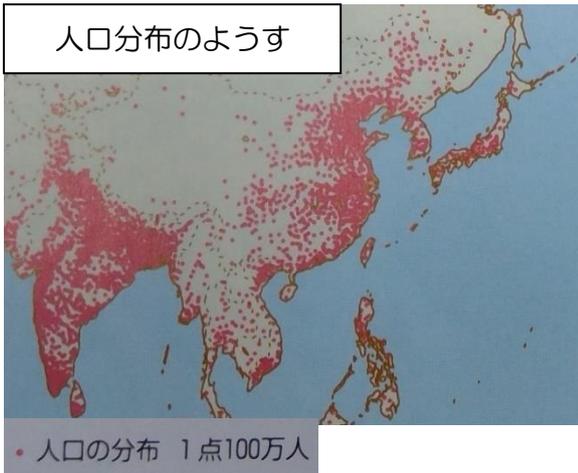
引用・参考文献

群馬県教育委員会(2019). たくましく生きる力をはぐくむ はばたく群馬の指導プランII

新潟大学附属小学校(2017). ICT×思考ツールでつくる「主体的・対話的で深い学び」を促す授業 小学館

文部科学省 (2018). 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 社会編 東洋館出版社

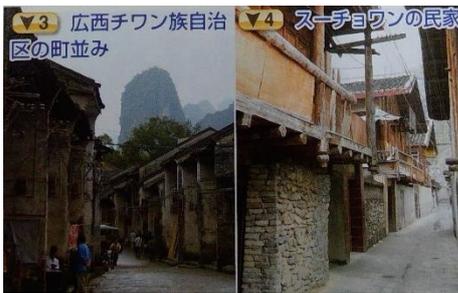
【資料2】中国の地域の課題を見出させるために提示した資料



都市部

地域格差の写真

内陸部



引用・参考文献
星沢 卓也(2022). グラフィックワイド地理 I

【資料3】パフォーマンス課題「アジア州の課題の解決策」 生徒の回答例

小学生のみなさん、アジア州では、・・・
 経済が目覚ましく発展している反面、様々な課題が生まれており、私たちに
 はそういった物を解決することが求められています。今からその課題と解決策
 を紹介します。まずは『過密』です。これは大都市に人口や都市機能が集まり
 ぶることを指しています。この課題により、鉄道や道路の混雑、環境問題、
 物価の上昇等の問題が出てきます。この原因には、大企業が都市部に集中し
 働く人が周辺に集まりました。生活するのに便利なので人が物転して来た、などが
 あります。これを解決するには、都市部周辺にニュータウンを開発し移転を勧め、過密
 地域の人口を減らす、住宅を高層化し、住宅不足を解消する、などがあります。
 次に紹介するのは『過疎』です。これはある地域の人口が少なくなり過ぎることを指し
 ています、『過密』にも関わっています。これにより、公共交通網の崩壊、商店街の衰退といった問
 題が起こります。その原因として働く場所の減少により仕事を求め都市へ物転して来た、
 生活が不便になり、便利な都市へ多くの人が物転して来た、などがあります。これを解決す
 るにはネットショップなどを利用して、事業のはじめやすい環境をつくる、観光地や名産品と有名にし
 働く場所を増やす、などがあります。最後に、環境問題を紹介します。数多くある環境問題の中
 から今回は『大気汚染』を取り上げようと思います。これは知っている人も多いと思いますが、大気中の有害な
 気体成分が増加することです。これにより、人の健康や環境に悪影響をもたらします。人
 間の経済的・社会的な活動が主に原因となっています。これを解決するには、エアコンの利用
 だけではなく、徒歩、自転車を利用した移動などがあります。これらの課題は私たちの未来にも
 関わってきます。私たちが何とにもならないことになりましたが、私たちにできること少な
 かりませんでした。できる事から、ていさ、よりよい未来を目指しましょう。

小学生のみなさん、アジア州では、・・・
 過密、持続可能な開発、大気汚染などの問題が発生しています。
 まず最初に過密の話をしてします。過密というのは、大都市に産業や
 人口が集中することです。例えば、中国だったら上海などに
 集まっています。また、人口が減ってしまうことを過疎といひます。
 過密と過疎はつながっています。この、人口がーが所に集まっ
 て、過密を防ぐ方法は、地下鉄をつくるなどをして、
 道路が混んでしまうことを減らしたり、タワー・マンションなど
 住宅を高くして、住む場所が無くなる、減らしてしまうことをなくしたりすること
 で解決できます。
 次に持続可能な開発です。このころでは、SDGsが流行っていますね。
 その中でも、エネルギーがなくなること解決しよう。私たちが身近で取
 組めることはエネルギーを無駄に使わないことが大切です。例えば、電気をつけ
 っぱなしにしない、環境のことを考えた製品を選んで買うなど、私たちが取り組めるこ
 があります。最後に大気汚染の問題です。経済がどんどん成長しているアジ
 ア州では、中国の海岸沿い、インドの周辺などが特に空気が汚れています。なので、
 移動をするときはなるべく、徒歩、自転車、バスなどを使うようにしましょう。
 アジア州では経済成長が速く進んでいるが、課題はまだまだたくさん
 あります。それを、少しづつ解決できるようにしよう。